

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

活動地域・団体名：宗像国際環境会議実行委員会

今後地域の将来像を実現するために必要と考えられる事業を3つ書いてください。

1 事業名称：バイオマスガス発電事業			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
宗像市内の牧場「すすき牧場」の飼育牛約2000頭から排出される糞尿を使った、バイオマスガス事業。	①なぜこの事業をやるのか(Why)	現在、肥料の活用は行っているが、エネルギーの地産地消を進めることで、低炭素社会を実現できる。	新電力会社を立ち上げ、運営するための初期投資を賄うスポンサー、出資者をどう集めるか。
	②どの地域資源を活用するか	すすき牧場で飼われている約2000頭の牛から日々排出される糞尿	
	③商品・サービスの具体的な内容は何か(What)	電気、熱エネルギー	
	④誰がこの事業の主たる担い手か(Who)	新たな電力会社を立ち上げ、そこが実施	
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	肥料として活用されている牛糞・尿を更に付加価値を高め、エネルギーを生み出し、更にそのエネルギーを使って、牧場内の電気、近隣のビニールハウスでの園芸農業などに活用することにより、エネルギー源を海外に頼ることなく、地域内で完結できる。	地元金融会社（遠賀信金、福岡銀行など地場金融会社）

2 事業名称 鐘崎漁村集落でのエコツーリズム				
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック		
海女の発祥地及び県内有数の漁獲高を誇る宗像市鐘崎漁港を中心（皮切り）に、海の生業に従事する海女さん、漁業者、遊漁船経営者などが観光、ツーリズムの受け皿となって「海藻おしぼ体験（海女さん）」、「宗像海人族体感漁船クルーズ（遊漁船経営者）」、「釣り体験（漁業者、遊漁船）」などの海に関係する体験プログラムを実施する。	①なぜこの事業をやるのか(Why)	海の生業に従事する地域と触れあえるエコツーリズムをやることで、海の環境のこと、魚のこと、海女のことを知り、ファンになってくれることで、海の生業を支えてくれる存在に。	自然環境に左右されるので、例えば海が時化ると漁船を使ったプログラム（釣り、クルーズなど）は出来なくなるし、海女漁があれば、海藻おしぼ体験はやれないし（ただし海女漁は時期が決まっており、予め休漁日も決まっているので、事前予約にすれば対応可能）、悪天候での代替プログラム構築など対応策が必要。それと、海女、漁師は自ら顧客獲得のためのマーケティング、営業は不得手であり、その部分を担う、DMO的な組織の存在が必要。現在鐘崎の観光地域づくりの協議会「宗像鮫の会」は発足。地域DMOについても立ち上げ準備中。	
	②どの地域資源を活用するか	海そのもの、海藻、漁船、鐘崎中心に宗像の歴史、漁師・海女など地域住民。		
	③商品・サービスの具体的な内容は何か(What)	現役海女による「海藻おしぼ体験」、遊漁船による「宗像海人族体感漁船クルーズ+漁師食堂または船上での食事」など		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	④誰がこの事業の主たる担い手か(Who)	現役海女さん3名（林、本田、正好）、遊漁船Wakasioグループ代表、八尋氏。		宗像での地域DMO候補法人（申請中）「MUNAKATAmura tabi」
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	海女、遊漁船経営元漁師と体験プログラムを通じて触れあうことで、宗像鐘崎の魚貝類ブランドが向上し、道の駅むなかたでの購入、鐘崎飲食店での飲食、ネット通販での購入、イベント時での消費につながり、鐘崎の海女・漁師の生業向上に。結果、海に興味関心を持つ消費者が増え、環境活動の呼びかけにも応じてくれる可能性が広がる。		

3 事業名称 漁師による海ゴミ・漂着ゴミ回収事業				
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック		
漁師による海ゴミ（海底に沈んだビニール、プラスチックゴミなど）や漂着ゴミ、更には海岸線に漂着ゴミを回収し、リサイクルしていくビジネス。	①なぜこの事業をやるのか(Why)	漁師が一番海の状況（潮の流れ、天候、季節風など）を知っており、漁師が海の環境保全に取り組む先進事例を作ることにより、休業補償にもなり、実際に海ゴミに悩む地域の解決モデルにも成る。	スタートアップするまでの間の資金、マネジメントするための組織。ただし、今回の事業については、既に巻き船団「共進丸」の若手漁師たちが動いており、元県庁職員であり漁師である桑村氏をプロジェクトマネジャーとして検討中。	
	②どの地域資源を活用するか	海（海底、海表）及び海岸線に流れ着いたゴミ、海が時化した時など休業で手が空いた漁師、海女、海士など		
	③商品・サービスの具体的な内容は何か(What)	海ゴミの回収ビジネス、回収したゴミを原料に製品を作りリサイクルビジネス		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	④誰がこの事業の主たる担い手か(Who)	漁師、海女、海士など。先行的に巻き船団の漁師たちが実践。		立ち上げサポートできる環境省及び水産庁の補助・助成事業の担当部署。（既にご紹介いただいています）
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	国全体で今後取り組むべき、海ゴミ問題について、まずは海の生態系を一番し熟知している漁師など海の生業従事者が携わることで、第一次産業従事者の労働力が循環し、更に都市住民含め消費者への環境への啓蒙活動につながり、魚食拡大に循環していく。		